

町小だより

令和元年
10月11日
No. 641
御免町小学校

マラソン記録会に思う ～500のドラマと周囲の思い～

校長 藤井 聡

実りの秋を迎え、農家の方が丹精込めて育ててきた野菜や果物を味わうことが楽しみな季節になってきました。

一つ一つの学校行事や活動を終えるたびに、子どもたちは学びを深め、力をつけていっている様子がうかがわれます。町小も実りの秋を迎えているようです。

秋晴れの爽やかな空の下、マラソン記録会が行われました。たくさんの保護者や地域の皆様においでいただき、声援をおくっていただきました。ありがとうございました。子どもたちは、いつも以上に頑張っていたようです。応援の力って凄いですね。

さて、マラソン記録会当日はもちろんのこと、そこに至るまでの練習の過程も含めて、子どもたちの姿から様々なことを思いました。そして、考えさせられました・・・。

マラソン記録会は、足の速い子ばかりが主役に思えるかもしれませんが。確かにそこには、光が当たります。賞賛されてしかるべきです。しかし、もっとよく見ていくと、様々な子がいたのです。スタート直前に、周囲の目に耐えられなくて泣きじゃくりながらスタートをしていった子。いつもなら、歩き始めるところに差し掛かっても歩かずに走り切った子。友人と競い合い、負けたにもかかわらず、悔しがるのではなく、爽やかに友の頑張りを称えた子。また、マラソン記録会に参加できた子ばかりではなく、参加できなかつた子もいます。体調がすぐれなかつた子だけではなく、精神的な重圧に苦しんでいた子や逃げ出したいがために参加しなかつた子もいます。そんな子ども達も含めて、全校児童 500 人に 500 のドラマがあつたのです。そして、その 500 のドラマを支えたり、応援したりした親や家族、教師といった子どもを取り巻く周囲の「思い」があつたのです。これは、学校でなければ得られない、貴重な経験となり、人生の糧となります。

学校には、様々な行事や活動があります。それは、様々な特性や能力をもった個性あふれる子どもたち一人ひとりが主役となり、輝く場を提供したいからです。そして、教科の学習だけでは得られない『学び』を獲得させたいからです。

500 人の子に 500 のドラマ・・・マラソン記録会は、子どもたちが、『学び』を得るとともに、自分自身と向き合つた行事であつたのです。

